



祝  
10月1日発足

# 保原中央 自治振興会だより

第1号

29.11.22 発行

発行責任者  
会長 一条恒男



会長 一条 恒男

今度、皆様のご協力により「保原中央自治振興会」を結成することができました。

多くの皆様のご協力、役員となつていただきました方々のご尽力に心から敬意と感謝を申し上げます。

長い間皆様の期待と努力によって結成となつた所であり、初めて保原地域に自治組織が出来た事は保原地域の振興、発展の基礎が出来たといつても過言ではないと思います。五町の合併が行なわれ、少子高齢化に対応すると言わされました。急速に少子高齢化、人口減少が進んでいます。これらの対応が求められています。町内会長会を始めとし、町内で活動している各種団体が立ち上げる準備を進めてきました。世話人会をつくり、準備会をつくりました。先進地区的山形、村山市や伊達市西地区の見学、研修も行ないました。

伊達市等からのご援助もいただき

きました。

今後皆様のご協力により、意義深い団体にしたいと思います。今後共、ご指導、ご援助をお願いし、あいさつと致します。



祝  
伊達市長 仁志田昇司

保原中央自治振興会の発足、誠におめでとうございます。

これからお祝い申し上げますとともに、これから高齢社会に対応するうえで大きな力となるものと考えており、その設立に敬意と感謝を申し上げます。

世界にも例を見ない「少子高齢社会」を迎える中で、国は平成12年に介護保険制度を施行すると共に3年毎に改定を行いつつ各種の政策を講じてきたところで、当市もそれにあわせた高齢者対策を実施し、「安心して老後を迎えられる社会」を目指してきたところです。その取り組みは行政を中心としたものであつて、本市も現在の「地域包括ケアシステム」における訪問介護、訪問看護などの「公助」は今後とも充実していく必要があると考えております。

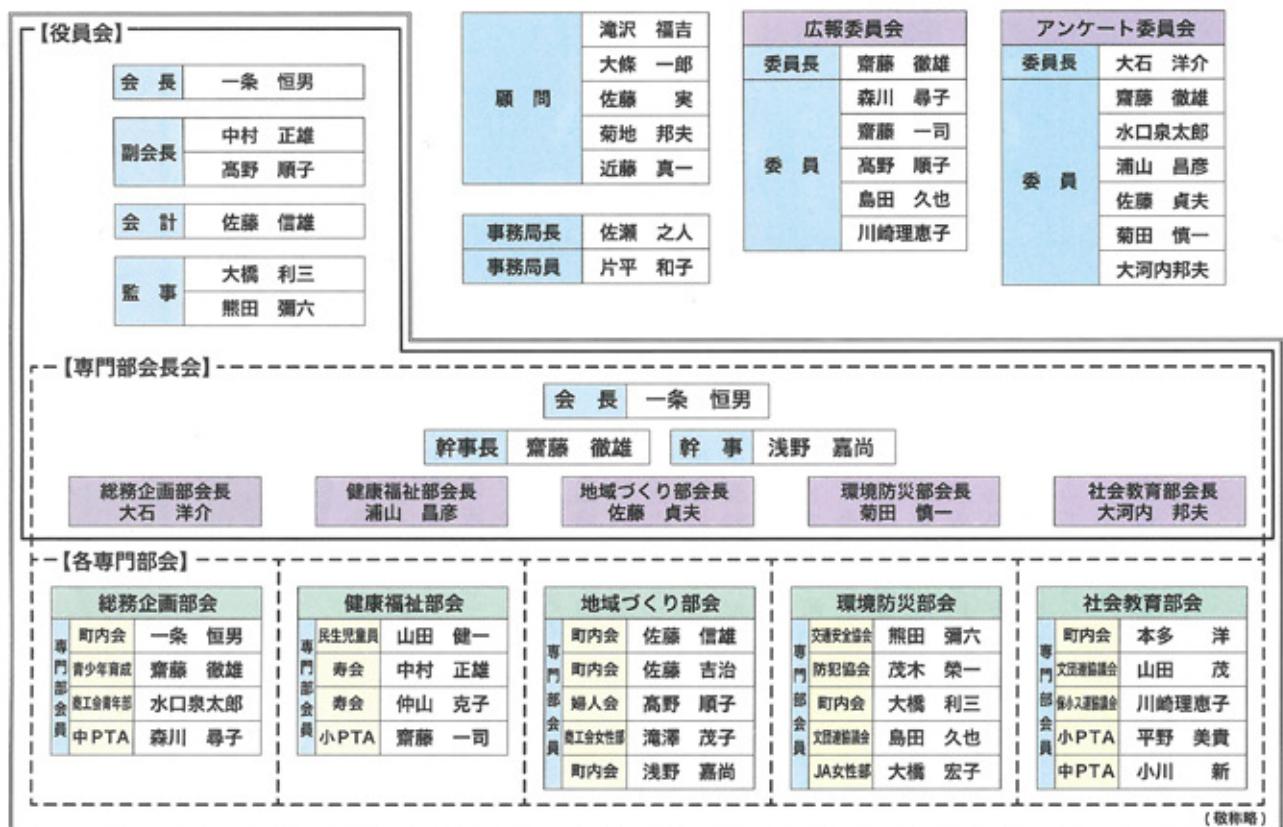
現状においては、実は「公助」だけでは十分ではありません。「公助」はどうしても迅速性に欠けたり、身近なちょっとした支援には対応しにくい面があり、これまでも町内会や隣近所のよしみで生活上のこまごましたことでの助け合い、すなわち「共助」が行われてきたところです。これは支援する人のボランティア精神によるところが大であり、頼む側にも頼まれる側にも遠慮が発生し、例えば、お礼をどのようにしたら良いのかなどと余計な悩みを抱えてしまう事があります。

こうしたことから、市としては、地区内会の助け合いは尊重する一方、町内会の枠組みを超えた、いわゆる「小規模多機能地域自治」の考え方による市民協働による「共助社会」を構築する事が必要であると考えており、その運営基盤となる「地域自治組織」を数年前から町内会の枠組みを超えた、いわゆる「地域自治組織」を数年前から小学校区単位に立ち上げることをお願いしてきたところです。

今回、最も構成人口の多い保原地区で立ち上げて頂いたことで、その地域自治組織の機能を生かし、ボランティアの感謝の証となる「地域通貨」の導入によって共助の高度化を計つて、「安心して歳が取れる社会」の構築を目指していきたいと思います。



## 保原中央自治振興会組織図



### 設立準備会の活動報告

8月9日	第6回委員会	4月10日	第1回委員会	平成29年
案について	案について	4月25日	第2回委員会	・設立準備会総会
自治組織発足時の事業及び規約	構成団体次行仕分。委員会ワーキシヨツブについて	4月20日	第1回役員会	・事業、会計、事務局について
案について	構成団体次行仕分。委員会ワーキシヨツブについて	5月9日	第2回役員会	・自治組織の方向性委員会の進め方について
第7回役員会	第4回委員会	5月23日	第3回役員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
自治組織発足時の事業及び規約	クシヨツブについて	6月2日	第3回委員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
案について	クシヨツブについて	6月8日	第4回役員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
第6回委員会	第5回委員会	6月14日	第4回役員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
案について	クシヨツブについて	7月12日	第5回委員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
第7回役員会	委員アンケート調査票からワーキシヨツブ実施	7月26日	第6回委員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
自治組織発足時の事業及び規約	案について	8月2日	第7回役員会	・準備会日程、構成団体年間行事について
案について	案について	8月9日	第6回委員会	・準備会日程、構成団体年間行事について

・ワークショップ集計、自治組織  
発足時の事業・規約案  
・設立総会、役割分担

9月6日 第8回役員会  
9月27日 保原中央自治振興会  
総会

### 平成29年度事業計画

(29年10月1日～30年3月31日)

●会議開催(随時)

●総会・委員会・役員会・専門

部会の開催

●広報活動 広報誌の発行2回  
●意識調査・報告会  
●地域住民・団体対象とし実施

●各部会毎に事業計画づくり

### 平成29年度事業予算

【収入】	5,400,000 円
●交付金	市から地域自治組織活動支援交付金
【支出】	5,400,000 円
●報償等	2,129,000 円
●旅費交通費	160,000 円
●会議費	250,000 円
●消耗品費	1,259,000 円
●印刷製本費	330,000 円
●通信費	72,000 円
●保険料	50,000 円
●使用料賃借料	250,000 円
●備品購入費	900,000 円



## 自治組織Q&A

### Q1なぜ自治組織が必要なの?

A 我が保原地域においても少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの衰退が着実に進行しています。

今後想定される問題として、祭の開催困難、消防団・若連の担い手不足、空き店舗増加、若年・高齢者の孤立化等々地域が抱える課題が様々と生じてきます。

今はよいけれど、そうなる前に若い人たちのために地域の課題を考え、細かな対応ができる体制作り、地域自治能力を高め地域力で解決できる数年先を見据えた「自助・共助・公助による市民協働の体制作り」をすることが我々の責務なのです。

### Q2自治組織の活動とは?

A 町内会・消防団・寿会・婦人会・ボランティア団体・PTAなどのみなさんや地域で活動している団体によって構成されます。

「こんな地域にしたい」「こんな活動をしたい」という目標をみんなで決めます。地域の課題を整理し、安全・安心、子ども、福祉、環境、文化、学習

の必要な活動を考えみんなで行動していく横のつながりの仕組みを作ります。

活動として考えられる事例です。

防災・安全・災害

自主防災組織、災害時対応等

健康体力づくりによる健幸都市

地域の主体的事業による活性化

地域産業・観光おこし

社会教育の展開

高齢者対策

環境づくり

環境美化活動、リサイクル

少子化づくり 見守り、体験学習

### Q3町内会があるのになぜ自治組織なの?

A 町内会は世帯単位の加入で近隣を核とする「顔の見える関係」になり慣習的行事が中心の組織体です。

自治組織は個人がベースの考え方で課題解決のための活動が主となる「地域の組織体」です。

補完性の原則に基づき、町内会でできることを担い、できないことを自治組織が担当するという関係にあります。町内会があるから自治組織が要らないということではありません。

## 準備委員アンケート調査から

### 団体として設立する自治組織に何を望みますか。

(7月12日、設立準備会で実施したものから抜粋したものです。)

団体として今困っていることは何ですか。

会員が減少している。

高齢化している。

行事の参加者が少ない。

役員のなり手がない。

PTA育成会の運営が難しい。

商店等が減少している。

地域において、今困っていることは何ですか。(個人)

少子高齢化が進んでいる。

会員が減少し、後継者がいない。

行事への参加が少ない。

地域住民の交流が少なく、近隣意識が希薄になっている。

地域防災の取り組みを進める。

各種講演会を開催する。

地域において、さらに進めていることは何ですか。(個人)

少子高齢化が進んでいる。

会員が減少し、後継者がいない。

行事への参加が少ない。

地域住民の交流が少なく、近隣意識が希薄になっている。

地域防災の取り組みを進める。

各種講演会を開催する。

地域において、さらに進めていることは何ですか。(個人)

少子高齢化が進んでいる。

会員が減少し、後継者がいない。

行事への参加が少ない。

地域住民の交流が少なく、近隣意識が希薄になっている。

地域防災の取り組みを進める。

各種講演会を開催する。

地域において、さらに進めていることは何ですか。(個人)

少子高齢化が進んでいる。

会員が減少し、後継者がいない。

行事への参加が少ない。

地域住民の交流が少なく、近隣意識が希薄になっている。

地域防災の取り組みを進める。

# 各部のスローガンと抱負



**健康と個性が創る**

**活力と希望あふれる  
ほばら**

## 総務企画部

**地域の魅力が輝く  
まちづくり**

## 健康福祉部

**こころ寄り添う  
健やかなまちづくり**

## 地域づくり部

**ともに紡ぐ  
協働のまちづくり**

## 環境防災部

**自然と調和し快適で  
住みよいまちづくり**

## 社会教育部

**豊かな心を育む  
まちづくり**



総務企画部会長  
大石 洋介



地域づくり部会長  
佐藤 貞夫



社会教育部会長  
大河内邦夫

保原中央自治振興会の総務企画部長の役職をいたしました、保原町商工会青年部部長の大石洋介です。総務企画部として各団体の皆様にご協力をいただきながら、広報活動やアンケートの収集をしていきます。また設立準備委員会より携さわらせていただき、商工会青年部の活動と経験をもとに微力ながら保原町自治組織振興会の組織運営に邁進していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。



健康福祉部会長  
浦山 昌彦

保原中央に念願の自治組織が設立され誠に喜ばしい限りである。これからは皆で知恵を出し合い活動と魅力ある地域を創る為、どもに紡ぐ協働のまちづくり、をスローガンに掲げ地域の特質を活かしながら行政と連携を密に自立した地域づくりに取り組んで参りたい。困難も多々有ると思いますが幸甚にも我が専門部会には優秀な人材が配置されていますので皆が心一つが配置されていますので皆が心一つに自分のできる事から始めればその一歩は必ず新たな伝統を築く突破口となると思います。



環境防災部会長  
菊田 慎一

保原中央に念願の自治組織が設立され誠に喜ばしい限りである。これからは皆で知恵を出し合い活動と趣味やスポーツなどの活動を通して、それらの技術を一層極める事の楽しさと喜び、そして人と人のふれあいなど豊かな感情と健全な生き方を追究します。これらの活動を推進する過程で、事業の趣旨を十分理解し、積極的にチャレンジする意欲と資質ある人材を育成します。以上を組織の連携・協働で進めます。

新たに、自治振興会という地域の枠組で「健康福祉」という日々の生活に欠かせないテーマを、地域の皆様と一緒に考え、活かせる事業を行うことが大きな役割と考えております。「健康福祉部会」では、「少子高齢化・介護」そして「心と身体の健康」の二つが今後の事業の大きな柱になるかと思思います。なにとぞ地域の皆様のご指導ご理解を宜しくお願ひ致します。

## あとがき

地域未来の為に新たな自治組織が活動できる事を誇らしいと実感致します。環境防災部では、少子高齢化に伴う地域社会の弱体化を見直し、安心・安全な環境を整えて参ります。特に地域の防災力を高める為に自主的防災が多くの方々に普及するよう努力致します。地域の皆様のご理解とご協力を宜しくお願ひ致します。